

【東日本大震災で被災された皆様へ】

昨年の東日本大震災で被災された皆様に  
心よりお見舞いを申し上げます。  
株式会社シニアサポート 社員一同

はじめに…

誰にとっても「よい施設」はありえない！

「ホームあしすと入居相談室」では年間で数百件  
におよぶ介護施設へのご入居相談を頂いておりま  
す。実は、相談の多くが「認知症の両親に、どこか  
よい施設を」という、お子様からのものです。そこ  
で、今回は〈認知症での施設入居〉をキーワードに、  
施設選びの考え方やポイントについて、有料老人ホ  
ームを中心に紹介していきます。

認知症になった場合に生活のできる高齢者住宅と  
して、次の3つの施設が考えられます。

- ①特別養護老人ホーム
- ②グループホーム
- ③有料老人ホーム（介護付・住宅型）

※詳しくは50ページの「介護施設の分類条件」を参照。

特別養護老人ホームは、公的機関の運営する福  
祉施設です。ベッド数が不足しているために、特に  
緊急性の高い状況でないとう入居が困難であるのが  
現状です。グループホームは、認知症の方々が少人  
数のグループを作り、介護スタッフと一緒に生活を

する施設です。基本的には地域密着型の介護施設  
で、今お住まいの市区町村内のご入居が原則です。

次に、**有料老人ホーム**です。一口に老人ホームと  
言っても、その内容はさまざま。特別養護老人ホ  
ームを公立の学校に例えるなら、有料老人ホームは私  
立校だと考えると分かりやすいでしょう。私立の学  
校は運営母体や方針により、校風が大きく違います。  
有料老人ホームも設立母体である企業や団体の考  
え方によって、サービスやコンセプトがガラリと変  
わります。

ご入居者様一人ひとりの状況や生活スタイルによ  
って、理想となる施設は千差万別です。すべての人  
に相応しい介護施設はなかなかありません。予算だ  
けではなく、本当の意味でご本人に最適な施設を  
見つけることが大切です。

同様にご入居者様が認知症の場合も、進行の度  
合いや症状によって施設を選ぶポイントが違いま  
す。施設選びの際に、一番気をつけなければいけ  
ないのは**見守りの手厚さ**です。



巻頭  
特集 プロ相談員が徹底解説  
安心できる老後のために、  
今考えよう

選び方のポイントはここ！  
認知症での住まい探し

今号の巻頭特集は、認知症での介護施設入  
居についてです。かなり重いテーマではありま  
すが、誰もが考えておくべき問題です。認知  
症であっても、より健やかに安心して生活す  
るために……。ぜひ、住まい探しのヒントとして  
お役立てください！

PROFILE



樋口 国陽  
ひぐち くにきよ

(株)シニアサポート代表  
有料老人ホーム紹介センタ  
ー「ホームあしすと入居相  
談室」を開設。長年にわた  
り数多くの相談者に最適な  
介護施設を紹介してきた、  
施設選びのエキスパート。

目次

巻頭特集

選び方のポイントはここ！  
認知症での住まい探し…………… 2

ご相談からご入居までの流れ…………… 8

関東一円 使える! 見つかる!

1655件とつながるリスト

掲載情報の見方…………… 9

住まい選びの あしすとリスト…………… 10

東京都23区…………… 10

東京都市部…………… 17

神奈川県川崎市…………… 22

神奈川県横浜市…………… 24

神奈川県相模原市…………… 28

神奈川県市部…………… 29

千葉県千葉市…………… 34

千葉県市部…………… 36

埼玉県さいたま市…………… 40

埼玉県市部…………… 42

茨城県…………… 46

栃木県…………… 46

群馬県…………… 47

山梨県…………… 48

プライバシーポリシー…………… 49

施設選びのプロが教える!

講演会のご依頼を承ります…………… 49

ご存じですか?

介護施設の分類条件…………… 50

チェック!

介護にいくらかけられる?…………… 52

入居予算試算表…………… 53

コラム ベテラン相談員のひとりごと

ひとくくりには決められない、  
認知症になってからの施設探し…………… 54

入居相談FAX送信票…………… 55



## 2タイプの介護施設 ホテル型と病院型

一口に認知症といっても、具体的な症状や程度はさまざまです。重度の認知症で、お食事を済ませたことを忘れてしまうほどの極度の物忘れをする方や、ウロウロと徘徊をしてしまわれる方と、多少の物忘れはあるにせよ具合のよい時にはきちんと会話ができる方とでは、相応しい施設はおのずと違ってきます。

ここでは、分かりやすく説明するために有料老人ホームを**病院型**と**ホテル型**の2タイプに分けてお話いたします。この分類は主に設備面についてのものです。受けられる介護サービスに大きな違いはありません。

まずひとつは、**ホテル型**の施設。これらの施設の多くは環境を重視した設備が特徴です。居室・共有スペースが広く、ゆったりとしています。ラウンジに絵画や応接セットが配置されているなど、一見するとホテルのような印象を受けます。施設によっては、入居者の健康状態に合わせて別々の生活ゾーンを

設けている施設もあります。

もうひとつは、**病院型**の施設です。これらの施設では、居室はややせまい場合が多いです。これは、万一転倒した際に比較的安心であるため。また、居室内の生活動線を配慮し、ベッドからトイレまで移動しやすく配置されていたり、施設によってはビデオカメラが常時作動して死角を作らないように工夫されていたりと、見守り重視の設計であるといえます。

重い認知症のご入居者様の場合、より手厚い見守りを期待できる病院型のホームをおすすめします。逆に、症状が軽いご入居者様にとっては、自分の時間をより大切にできて自由な生活を楽しめるホテル型のホームが向いているといえるでしょう。

すべての施設がこの2タイプにきっちり分類できるわけではなく、中間的な施設も数多くあります。お一人おひとりの状況に合わせて施設を選ぶ必要があります。また、入居後に認知症の症状が悪化する可能性も考慮しなければなりません。

### 認知症から考える介護施設の2つの分類

※下記はあくまでも一般的な介護施設をおおまかに分類した例です。すべての施設がこの区分にあてはまるわけではありません。詳細については各施設のパンフレット等をご覧ください。

ホテル型	病院型
設備の特徴	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●居室が広い</li> <li>●共有スペース(ラウンジ・食堂など)がゆったりと広い</li> <li>●インテリアや調度品などが洗練されている</li> <li>●施設により、健康状態等による生活ゾーンを別々にしている場合もある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居室がせまい</li> <li>●室内設計に生活動線を意識(ベッドからトイレまでの距離が近いなど)</li> <li>●共有スペースがあまり華美でない</li> </ul>
認知症の症状・健康状態	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●症状が比較的軽い(軽度の物忘れ、判断力の低下など)</li> <li>●健康状態が良好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●症状が重い(重度の記憶障害、抑うつ、徘徊、攻撃的行動など)</li> <li>●健康状態に問題がある</li> </ul>

## 健康のためのサービス 医療連携とリハビリテーション

認知症の場合、完全に回復して元のように元気になることは難しいのが現実です。現状を維持して(症状の進行を極力抑えて)、できるだけ長く健やかに生活を送ることが最善であると思われます。そのためにも、施設探しの際には、各施設の医療連携とリハビリテーションについて着目しましょう。これらのサービスの違いは、各施設の特徴が出やすいところなので、比較検討する際にとっても有効です。

### ポイント1 医療連携と通院介助

介護付き有料老人ホームは、協力医療機関と提携しています。しかし、提携施設が総合病院であるケースはそれほど多くありません。受診可能な診療科目以外での通院介助に関しては、施設により対応が異なります。家族の付き添いが必須かどうか、スタッフによる介助が有料かどうか等は見学へ行かれたときに詳しく質問して、ご確認ください。もちろん、大切な方の健康状態については、ご家族がきちんと知っておく必要があります。たとえ、施設側で全面的に通院介助を行うという場合でも、必要があれば通院に同行するなどしましょう。

### ポイント2 リハビリテーション

近年、リハビリを重要視する有料老人ホームが増えています。特に、機能訓練士や作業療法士が常駐して入居者のリハビリをサポートする施設が多く見受けられます。認知症を発症した方の場合、ご自身が病気であるとか調子が悪いという自覚が薄いために、介護スタッフに言葉で希望を伝えることができません。それでも、入居者一人ひとりの健康状態に気を配り、運動や会話に参加してもらうことが、施設にとって力の見せ所です。施設が毎日の生活シーンの中でどの様なリハビリ(レクリエーション)

を行っているかを詳しく調べてみましょう。

認知症の場合、患者の言動を頭ごなしに否定することは避けなくてはなりません。はなから駄目だと力で押さえつけるのではなく、時間がかかっても、当人の納得がいくような誘導をするなど、細心の対応が必要です。認知症介護を得意とする施設の場合、経験豊富なスタッフが、本人にストレスを感じさせず上手に誘導してくれます。入居者一人ひとりへのきめ細かいサービスについては、パンフレットなどからは推測できません。実際に施設を見学する際に、入居者に対するスタッフの対応を観察するとよいでしょう。



## ご本人に代わっての施設選び、 チェックポイントはここ！

ご入居者様が認知症の場合、本人に代わってご家族が施設選びをしなければなりません。症状の程度や状況を考えて、前述したホテル型と病院型、どちらのタイプの施設がより生活しやすいかを判断する必要があります。

重要なのは、入居者様ご本人にとって、もっとも必要な環境やサービスが一体何なのかをしっかりと見極めること。絶対はずしたくない条件と、比較的優先度の低い条件とを整理したうえで具体的に施設を探すとよいでしょう。

すべての条件が希望に合致した施設を探すことはとても難しいです。その中でどうしても譲りたくない条件は何かを予め考えておきましょう。右のチェック表に挙げた項目を、ご自分の状況に照らして優先順位で並べ替えると、施設を選ぶための大きな手がかりになると思います。

### ✓ チェックリスト

以下の項目に優先順位を設けたうえで、施設見学時にチェックしましょう

- 自宅（家族）からの距離
- 医療サポート体制（病院や医師との連携、病気になったときの対応）
- リハビリテーション環境（機能訓練士等の体制、リハビリ施設の有無）
- 居室の広さ
- 施設の規模（入居者の人数）
- 共有設備の有無（理美容室、シネマルームなど）
- 施設周囲の環境（公園のそば、海や山の近く、平坦なところなど）
- 入浴サービス（1週間の入浴回数など）
- 食事サービス（味はどうか、メニューを選べるかなど）

## 誰もが気になる 費用の考え方は……？

介護施設に入居するために必要な金額は、施設ごとにまるで違います。各施設で料金体系が違ってもあり、ご相談者様にとっては大変理解しづらいかと思います。

入居一時金は、大抵は土地の価格で決まりますが、運営母体の考え方でもかなり差があります。一般的には、施設が建つ土地の値段と、居室・共有スペースの広さ・質に比例するとお考えください。

都心であっても、居室がせまく共有スペースが少ない施設は、一時金が安いのが一般的です。逆に、郊外に立地していても、居室が広く豪華な共有スペースを持つ施設は高額な入居一時金が必要となる

場合が多いです。

入居費用を考える際には、必ず、高いなり、安い理由があると考えましょう。なぜその値段になるのかをしっかりと確認することが重要です。

なお、月々の費用は入居一時金ほどの金額の開きはありません。入居期間に応じた金額（月額費用×入居月数）が必要となります。よく「どの位の期間を考えて費用を想定したらいいのか」と質問を受けますが、お答えするのはとても難しいです。人の命を計ることはできません。ただし、短く考えて費用が不足しては大変ですので、余裕をもって想定する方がよいでしょう。

## おしまいに… ご家族の支えが何よりも大切！

今号では、ご相談の多い認知症になってからの介護施設入居について取り上げました。認知症であってもそうでなくても、施設検討の一番重要なポイントは変わりません。つまり、何より大切なのは入居者ご本人様が楽しく生活できる環境を探すことという点に尽きます。

ご入居が決まっても、ご家族としての役割がそこで終わるわけではありません。実際のお世話は施設のスタッフが対応してくれますが、ご入居者様にとってご家族とのふれあいこそが最大の喜びであり、いちばんのお薬です。できるだけ頻繁に会いに行き、元気な顔を見せてあげてください。

### ホームあしすと入居相談室

私どもの相談室では、ご本人やご家族のご希望と条件を伺ったうえで、最適な施設をご案内しております。ご不明な点などございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

 **0422-22-1501** <http://senior-support.co.jp>

●営業時間／10:00～19:00 ●定休日／日曜・祝日 ※メッセージを残していただければ折り返しご連絡さしあげます。